

1 学校教育目標

一人一人の生徒が自分に対する理解を深め、将来の社会的な自己実現に向かって意欲的な学校生活を営むことができるような援助、指導を行う。

校訓（生徒への願い）

○発見（新たな自分の発見） ○挑戦（新たな自分への挑戦） ○創造（新たな自分の創造）

2 学校の特徴

- (1) 多様な学習歴を持つ生徒のニーズに応え、いろいろな場面において学習の機会を求めることができるよう教育課程を編成している。
- (2) 望ましい人間関係を築くため、生徒が主体となる行事の運営を工夫実践し、部活動の振興を図っている。
- (3) 幅広く適正な職業観に基づく的確な進路選択を可能とするために、生き方指導としてのキャリアガイダンスやキャリアカウンセリングを実施し、各年次において企業等の協力を得て、インターンシップや進路特別講座などの進路学習を実施している。
- (4) 支援の必要な生徒に対して、昨年度配置された通級指導員やスクールソーシャルワーカーをはじめ、スクールカウンセラー、高等学校巡回指導員及び外部機関とも連携し、校内研修等を通じて共通理解を図り、学校全体で支援を行っている。
- (5) 生涯学習校として、地域の生涯学習の拠点となるように教育課程を工夫し、社会人と高校生がともに学ぶ共学講座を開設している。

3 学校の現状と課題

本校の生徒は概して素直であるが、学習意欲、進路意識、生活習慣、コミュニケーション能力等において、個々の実態は多様である。不登校の経験や障害を抱えるなどの経歴から、特別な支援を要し学校生活への適応力を十分備えているとは言えない生徒も見受けられる。

生徒一人一人が学びに向かい、思考力、判断力、表現力を育み自立していく力を身につけさせるため、学校全体のユニバーサルデザイン化、教育相談体制の充実や個別の支援計画の共有など、きめ細やかな支援が必要となっている。また、キャリア教育のあり方については、生徒や保護者への的確な情報提供を行い、大学や企業等との連携による「オープンキャンパス」「インターンシップ」等の行事を通じて、望ましい勤労観・職業観の育成を図っている。

2022年度から始まる新学習指導要領の実施によるカリキュラム編成や、大学入試共通テスト実施に向けた進路体制の再構築など、さらに組織力を高めることが求められている。

4 学校教育計画

項 目		目 標 ・ 方針及び計画	
1	学習活動 重点 1	目 標	<ul style="list-style-type: none"> 各教科、科目において、生徒一人一人が課題の解決に意欲的、主体的に取り組む態度を育成し、基礎学力の向上を目指す。
		計 画	<ul style="list-style-type: none"> ① 基礎学力の向上と学習意欲を向上させるため、互見授業や校外研修などにより授業研究を進め、生徒主体のわかりやすい授業（授業のユニバーサルデザイン化）を推進する。 ② 生徒の多様な学習意欲、達成度を把握し、学習指導法の改善に活かす。 ③ 各教科間の連携を図りながら、生徒一人一人の能力や進路に応じた指導を目指すとともに、通級による指導を実施する。
2	学校生活 重点 2 重点 2	目 標	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の確立を図るとともに、社会的な規範やマナーを遵守する態度の育成、安全意識の高揚に努める。 心身両面にわたって、主体的に健康の保持増進に努めようとする能力・態度を育成し、各自の生活リズムについて考えさせる。
		計 画	<ul style="list-style-type: none"> ① 日常生活における基本的な生活習慣の確立や、社会生活のきまりについて、主体的に考えさせるよう努める。 ② 地域の講師による安全教育や車体検査、交通安全指導を実施することにより、通学時の安全意識の高揚を図るとともに、自転車等の乗車マナー向上に努める。 ③ 保健委員会の活動を通して、基本的な生活リズムを考えさせることで、健康な心身を育み、学校生活の質を向上させる。 ④ スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、高等学校巡回指導員、通級指導員との連携を深め、教育相談の充実を図る。 ⑤ 面接週間を設定してゆとりある面接指導を実施し、職員の情報共有を進め、生徒理解に努める。
3	進路支援 重点 3	目 標	<ul style="list-style-type: none"> 将来の自己実現に向かって、意欲的に学校生活を送っていこうとする態度を育成し、進路実現に向けた主体性を指導する。
		計 画	<ul style="list-style-type: none"> ① 生徒一人一人の進路目標実現に必要な能力の育成を図るため、「進路ノート」を活用するとともに、多面的できめ細やかな支援を行う。 ② 職業研究、インターンシップ、進路特別講座等において、関連機関との連携を図り、個々の職業観の育成を図る。 ③ 進路についての面談を通して、人間としての在り方、生き方について自分で考えを深めることができるよう支援する。 ④ 卒業予定者に対して、就職支援教員（JST）や校務運営委員と連携し、指導の充実を図る。

4	<p>特別活動</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">重点4</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-top: 20px;">重点4</p>	<p>目 標</p> <p>計 画</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 豊かな学校生活を築こうとする自主的、実践的な態度を培う。 ・ 読書に親しませ、豊かな人間性と情操を養わせる。 <ol style="list-style-type: none"> ① 学校行事では、内容や運営方法を常に工夫し、教育的効果が十分に上がるよう努める。 ② 生徒会活動や学校行事への積極的な参加を促し、生徒に自主的な企画・運営をさせ、生徒一人一人に達成感を持たせる。 ③ 部活動では、生徒の積極的な加入と自主的な活動を促し、心身の成長につなげる。 ④ 生徒の購入希望図書や電子書籍、校外図書館等の利用状況の把握に努め、本校図書館の学習環境や機能を充実させ、生徒主体の委員会活動との連携により、読書習慣の定着を進める。
5	<p>総合福祉科学習活動 及び 保護者・地域との連携</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-top: 20px;">重点5</p>	<p>目 標</p> <p>計 画</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 総合福祉科では、社会福祉に関する基礎的・基本的な知識と技術を総合的に習得させ、社会福祉の理念と意義を理解させる。 ・ 保護者との連絡を密にしながら、地域との連携・交流を推進する。 <ol style="list-style-type: none"> ① 地域との福祉交流活動を通してコミュニケーション能力の育成を図るとともに、専門技術者による講座を通して社会福祉への理解を深めさせる。また、将来の進路目標や自らの在り方生き方について考えさせる。 ② 社会福祉に係る資格取得の指導を充実させ、学習の達成感を育む。 ③ 進路目標を早期に確立させ、専門科目への意欲的な学習への取り組みを促進し、介護技術の定着を図る。 ④ P T Aの定期総会・役員会や学校行事・ボランティア活動への保護者の出席率を高め、P T A活動に対する意識の向上に努める。 ⑤ 学校評議員、同窓会、地域諸団体等との連携を深めることで、地域におけるボランティア活動等に生徒が参加できるような環境づくりに努める。 ⑥ ホームページやフライヤー等を活用して、本校の教育活動を広く紹介する。

5 今年度の重点課題(学校アクションプラン)

平成31年度 となみ野高等学校アクションプラン		－1－
重点項目	学習活動	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎学力の向上 ・ 意欲的な学習への取り組み 	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・ 不登校をはじめ様々な理由から、基礎学力や学習習慣が定着していない生徒や学習意欲が低調な生徒も見受けられる。 ・ 授業には比較的真面目に取り組むが、進路目標や、高次の自己実現に向けた自主的、意欲的取り組みは十分ではない。 	
達成目標	① 単位修得率	② 意欲的に学習に取り組んだ生徒の割合
	90%以上	70%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 互見授業週間等を通して授業や指導法の改善に取り組むとともに、ICT機器の積極的な利用や授業のユニバーサルデザイン化の推進を図り、わかりやすい授業を展開する。 ・ 国数英の「基礎学力コンテスト」を実施し、年次・教科と連携しながら事前・事後の指導に取り組み、基礎学力を定着させる。 ・ 通常の授業及び休業中の課題提出の徹底を図り、家庭学習の習慣化を促す。 ・ 学習状況調査や授業に関する生徒の意識調査など各種アンケートを実施し、生徒の実態を把握し、その分析結果と個人面接とを関連づけて、学校生活への意欲を喚起する。 ・ 年次、教科、進路指導部と連携し、進路目標に応じた学習への取り組みを促し、個別指導を充実させ、生徒一人一人の自己実現を支援する。 ・ 長欠者に通信科目の選択を意識させ、学習の機会を確保する。 ・ 安易な科目選択をせず、自己実現や学力の向上につながる科目登録ができるよう指導する。 	

重点項目	学校生活	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 安全意識の高揚 ▪ 健康意識の向上による生活リズムの確立・改善 	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・ 交通事故が28年度3件、29年度4件発生し、30年度は発生していない。しかし、スマホの「ながら運転」など安全意識に欠ける生徒や、事故が発生した場合に適切な対処ができない生徒もいる。 ・ 1日の睡眠や食事などの生活リズムを確立できず、倦怠感等の体調不良を訴える生徒や遅刻や欠席をくりかえす生徒や、わかっているにもかかわらず行動に移せない生徒も見受けられる。 	
達成目標	① 生徒の過失、違反による年間の交通事故件数	② 「生活リズムを確立・改善できた」とする生徒の割合
	ゼロ件	50%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年度初めに全校生徒対象に交通安全教室を実施し、安全意識を高める。また、定期的な指導により、歩行時および自転車運転時におけるマナー・遵守意識を向上させることで事故防止を図る。 ・ 全校集会や年次集会等で、いのちの大切さを考える機会を持ち、自他のいのちを尊重する意識・態度を醸成する。 ・ 車体検査を学期に1回実施し、車体の安全意識を高め、十分に整備された自転車の使用を徹底する。 ・ 交通事故が発生した場合、適切な対処ができるよう指導する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の1日の生活リズムの実態把握や生活リズムに対する意識調査のため、アンケート等を実施する。 ・ 生徒保健委員会による啓発活動を通して、生徒自身が睡眠や食事などの大切さを意識し、生活リズムの確立・改善に努められるように工夫する。 ・ 「心と体のつながり」についての理解を深め、健康意識を高められるように、生徒向け研修会を企画・実施する。 ・ 生徒が自己の生活リズムについて振り返るためのアンケートを実施し、健康管理への意識を高める。 	

重点項目	進路支援	
重点課題	適切な進路目標を設定し、達成できるようにする	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進路に対する意識が希薄で、明確な進路目標を持ってない生徒が見られる。 ・ 進路目標達成に向けて努力する姿勢に乏しい生徒が見られる。 ・ 進路目標達成に係る基礎学力が不足する生徒が見られる。 	
達成目標	① 卒業予定者の進路目標達成率	100%
	② 2月の進路希望調査で、進学・就職を明確にできる生徒の割合	1年次85%以上、2年次95%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職業研究、インターンシップ、進路特別講座(上級学校・企業見学会、先輩講話、進路ガイダンス、社会人講話など)を事前・事後指導を併せて行う。また、常に進路ノートを携行し、研修に活用させ、進路意識の向上を目指す。 ・ 卒業予定者に対して、就職支援教員(JST)や管理職、校務運営委員と連携し、進学・就職試験に向けた面接指導・小論文指導を実施し、社会人として必要な自己管理能力や基本的なマナー、コミュニケーション能力及び自己表現力を身に付けさせる。 ・ 日頃より面接等でのコミュニケーションを通じて、進路意識の向上、規則正しい基本的な生活習慣の確立、適切な進路目標の設定を指導する。 ・ 授業において、基礎学力・基本的マナーを身につけることに重点を置くとともに、放課後などに必要に応じ個別学習を行い、個々に応じた学力の向上を図る。 ・ 英数国を中心とした年次別学習を実施した上で、基礎学力コンテストを行い、結果を自己点検させることで、基礎学力の定着を図る。 	

重点項目	特別活動	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 学校行事への積極的な参加 ▪ 図書館の有効な活用 	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・ 集団活動や学校行事に苦手意識をもち、大勢でのコミュニケーションを必要とする場面になると場になじめなかったり、欠席したりする生徒も見受けられる。 ・ 生徒が読書をする機会は、プライベートな時間が中心であり、図書館を積極的に活用したり、読書の機会や分野を増やしたりする指導が必要と考えられる。 	
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ① 学校行事(チャレンジデーⅠ、Ⅱ、Ⅲ)の出席率90%以上 ② 学校行事(チャレンジデーⅠ、Ⅱ、Ⅲ)の充実度90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ③ 図書館の活用率向上50%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校訓「発見、挑戦、創造」の持つ意味の理解とその実践に努める。 ・ 生徒会を主体とした行事の企画・運営を行う。 ・ 行事における自分の役割を生徒に自覚させ、一人ひとりが行事に対してやりがいと満足感を持てるよう配慮する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 話題性の高い作品や、多様な生徒のニーズに応じた作品を準備する。また、案内・掲示や行事の進め方を工夫し、読書に対する意識を高め、図書館の活用率を上げる工夫をする。 ・ 図書委員の積極的な委員会活動を指導し、学校全体に図書館の活用を促す。 ・ アンケートで実態を把握し、読書だけでなく、図書館での調べ学習やNIEを推進する。

重点項目	その他(総合福祉科学習指導)
重点課題	・ 専門科目への意欲的な学習
現 状	・ 「地域で活躍する介護人材の育成」を指導目標として、日々の授業の中で介護のあり方を考えさせたり、知識・技術を定着させたりすることに努力を要している。
達成目標	介護技術の定着度・できた満足度(生徒の自己評価による) ----- 80%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none">・ 生徒に介護技術の評価項目をわかりやすく示し、目標を明確化する。・ 生徒同士の学びあいを活かして、相互に介護技術を高めさせる。・ 関連授業の連携により、介護技術を繰り返し練習させる。・ 配慮を要する生徒に対する指導や評価、実技試験の実施方法について工夫する。・ 常に授業のユニバーサルデザイン化を進める。